

「低ナトリウム血症の原疾患と補正速度の関連」

に対するご協力をお願い

研究責任者 畔上 達彦

研究機関名 慶應義塾大学医学部

（所属）腎臓内分泌代謝内科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2014 年 1 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日までの間に、血清ナトリウム 120 mEq/L 以下となった患者さん。

2 研究課題名

承認番号 20241196

研究課題名 低ナトリウム血症の原疾患と補正速度の関連

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学病院

研究責任者

（職位）専任講師（氏名）畔上 達彦

共同研究機関

東京都済生会中央病院

研究責任者

（職位）医長（氏名）小松 素明

4 本研究の目的、方法

低ナトリウム血症は、電解質異常の中で最も頻度が高く、さまざまな病気でみられます。特に血清ナトリウム 120 mEq/L を下回る重症低ナトリウム血症は、生命を脅かす深刻な電解質異常であり、この状態では、けいれんや昏睡などの重篤な神経学的症状が出現し、適切な管理による早すぎも遅すぎもしない速度での補正が必要です。

今回我々は補正の速度と低ナトリウム血症の原因となる疾患の関連に注目しました。原因となる疾患によって補正の速度が変化することは一般的に知られていますが、その影響を比較検討した確たる報告はありません。具体的には低ナトリウム血症の患者さんにおいて疾患ごとに補正する速度がどうなったのかを、血液・尿検査などの結果とともに評価させていただきます。

5 協力をお願いする内容

西暦 2014 年 1 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日までの間に、血清ナトリウム 120 mEq/L 以下となった方のデータを使用し、原疾患と補正速度の影響にかんする解析を行わせていただきます。冒頭に述べました通り、新たなサンプルの取得は一切ございません。具体的な使用するデータは以下の通りです。

患者背景(年齢、性別、身長、体重、バイタル、併存疾患、併用薬剤)、診断時およびその後の診療環境(場所、診療科、腎臓内科診療)、診療情報(症状、原因、補正方法、退院日、退院時薬剤)、血液検査(Alb、TP、UA、Na、K、Cl、UN、Cr、eGFR、AST、ALT、Total-C、HDL-C、LDL-C、Glu、CRP、WBC、Hb、Plt、Cortisol、ACTH、FT3、FT4、TSH、BNP)、尿検査(pH、比重、Na、K、TP、Cr)、原疾患に関する情報を提供していただきます。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2027 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

研究分担者：中村彰良 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX：03-3359-2745

E-mail: akiranakamurakidney@gmail.com

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第 2・4・5 週の土曜日(ただし祝日は除く)、午前 8 時 40 分から午後 4 時 30 分]にお願いいたします。

以上